

演題：滋賀県排尿支援プロジェクト

内容：

令和元年度滋賀の医療福祉に関する県民意識調査によると、「1年以内に尿失禁を経験している」者の割合が25.5%であり、そのうち「医療機関へ受診している」者の割合は11.2%と低いのに対し、「尿漏れは治療できるものではない」「年のせいなので仕方がないと思っている」者の割合は64.3%と高く、適切な相談・受診・治療につなげていない現状がある。

下部尿路症状は生活の質（以下 **QOL** とする。）に深く関係し、下部尿路機能（排尿・蓄尿に係る事象）の維持向上が生活上極めて重要である。滋賀県では、排尿・蓄尿トラブルに対して支援を行う人材の育成を進め、県下に「排尿支援ネットワーク」の普及を図るとともに、県民にむけて下部尿路症状の困りごとに役立つ情報の理解を促すことにより、県民の **QOL** の維持向上を目指すことを目的に2019年度より当事業を実施している。

まず、県内の有識者および多職種で構成する「排尿支援プロジェクト企画検討会議」を設置し、事業全体の企画・評価等を **PDCA** サイクルを回しながら行うこととした。

具体的な取り組みとして、**R1~2** 度は下部尿路症状に関する身近な理解者としての「排尿サポーター」および下部尿路症状に関する身近な相談者としての「排尿支援員」の育成プログラムの作成、地域において支援人材の育成を担う「排尿支援リーダー」の情報交換会の開始、下部尿路機能障害に関わる県内の医療機関への調査を行った。**R3~4** 度は育成プログラムに基づいてモデル地域での排尿サポーターと排尿支援員の育成を行うとともに、前年に行った医療機関調査の結果から下部尿路機能障害に関わる医療機関のリストおよび訪問看護ステーションのリストを作成しホームページに情報を公開した。加えて、排尿支援リーダーによる情報交換を継続的に実施した。

排尿サポーターの研修（民生委員、健康推進員等地域で活動する住民の方を中心として、下部尿路症状に関心のある地域住民が対象。）は、一般の方に理解しやすい内容で基礎的な知識を得られる内容とし、演習も加え楽しく学べるよう工夫をしたことで、どの項目についても受講者の **95%以上** の方が「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答していた。フォローアップの内容として希望が多かった骨盤底筋体操については、ステップアップ研修会・交流会を実施し、学びを深めた。参加者の声から、身近な人に発信していただけるよう相談機関のチラシや骨盤底筋体操のチラシを作成し配布した。

排尿支援員の研修（看護職、介護職、薬剤師、リハ職等）では、排尿障害に関する知識を得た上で、グループワークによる事例検討を行い、具体的な支援計画の作成について学びを深めた。また、その後それぞれの現場での実践を発表しあったことで、より現場で生かせる学びにつなげることができていた。今後は、個々のスキルアップだけではなく、所属や組織に対して排尿支援の視点の重要性の理解を促す必要があると考えている。

また、一般住民への啓発については、R1 度より排尿支援プロジェクト委員や排尿支援リーダー（泌尿器科医等の医師、認定看護師、排尿機能検査士等）の協力を得て継続的に行っており、今後 SNS 等を活用し動画をアップする等さらなる周知に努めたいと考えている。R4 度には、男性用トイレへのサニタリーBOX の設置の必要性について県庁内各所属や市町および関係機関へ働きかけており、今後も継続していく。

今後 R5~6 度には、モデル地域以外での排尿サポーター・排尿支援員の育成を市町や保健所、排尿支援リーダーと一体となって進めるとともに、下部尿路機能障害に関する病診連携・診診連携がより円滑になる仕組みを検討し、県民へのさらなる啓発にも取り組んでいきたい。

以上の取り組みを一体的に進め、滋賀県に住むだれもが気持ちよく排泄できることによる QOL（本人の望む暮らし）の維持向上を目指したいと考えている。